

【浦添市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築のため個別最適な学びと協働的な学びの実現」が示されています。また、教育現場においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）化やSociety5.0で描かれる未来像といったさらなる変革が語られ、今後教育における情報化は、ますます複雑で多様化、高度化することが予想されます。そこで国の学校教育情報化推進計画を基に、県は「多様化・高度化する社会へ対応できる人材の育成」を学校教育分野における重点目標に掲げ、自ら学ぶ意欲を育て、学力向上を目指すとともに、豊かな表現力と粘り強さをもつ児童生徒の育成を目指しています。

本市においては、浦添市学校教育情報化推進計画（令和5年～9年）の基本目標の中で、児童生徒に「①主体的にICTを学習に使う力」「②主体的に正確な情報を判断・選択する力」「③主体的に自分の考えを伝える手段としてICTを活用する力」を身につけさせ、「主体的な学習者としてICTを活用できる児童生徒」を目指します。

2. GIGA第1期の総括

① ICT機器整備事業について

本市では「子どもが主体的に学習するための学校ICT機器整備事業」を平成27年度から令和3年度まで順次整備を進めました。電子黒板をすべての小中学校の普通教室に導入が完了し、令和3年度から1人1台タブレット端末の整備（11897台）と、合わせて小中学校に無線環境設備を整備しました。高速通信ネットワークの新規導入、入れ替えによる強化を行った結果、市立小中学校16校同時でのオンライン授業に耐える通信環境が整いました。GIGAスクール構想による1人1台端末の整備に伴い、同事業において導入したタブレット端末を教師用端末として再配置し、主体的・対話的で深い学びの授業実現にむけて、タブレット端末を活用した授業改善を進めることができました。児童生徒に向けては、「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」が令和3年度から開始し、各学校で指定された学習者用デジタル教科書の運用ができました。

② 授業改善のための研修会の実施

授業改善に向けては、本市ICTエバンジェリストを、各学校に毎年1名以上委嘱し、年数回の研修会実施、ICTを活用した授業の事例紹介や最新情報の共有を行うことで情報教育推進リーダーとしての育成を行うことができました。また、毎年5名の研究協力員を委嘱し、プログラミング教育やICTを活用した授業実践研究を公開、事例研究をまとめ、発表もできました。

③ 児童生徒の情報活用能力の育成とプログラミング教育、情報モラル教育について

1人1台端末の活用が進み、「分からないことなどを調べる」「写真を撮る」や授業と連動した「宿題や課題を提出する」といったことが増加しました。また、考えをまと

める、共有する、発表するといった発達段階に応じた活用について学年ごとの活用度の増加も見られました。

プログラミング教育に関して、「浦添市コアカリキュラム」を作成し各小学校に周知しました。各小学校ごとにコアカリキュラムを基にプログラミング教育年間指導計画を作成し計画的に推進しました。また、教育研究所研究協力員による実践研究を行い、研究内容は報告書およびHPにて周知し共有ができました。各学校ごとに情報モラル教育推進計画を作成し計画的に情報モラル教育も推進しました。「児童生徒の情報モラルに関する実態調査」を2年に1度実施して市全体及び各校の実態把握と最新情報の共有を行ないました。さらに、情報モラル教材を全小中学校で活用を促進させました。

④ その他

令和3年度からICT支援員をこれまでの2名配置から4名配置に増員し、4校あたり1名の体制で学校支援を行うことができました。さらに、順次ICT支援員を増員を図り、令和6年度は8名まで増員、2校あたりに1名の支援体制となりました。役割としては主に、教師支援、授業支援、ICT出前講座、PC等の保守や修繕となります。

情報教育推進委員会を毎年2回開催し、本市教育委員会 教育長を委員長として設置し、市としての方向性と各課の役割を確認し、多様な視点からの情報教育へのサポートに取り組むことができました。

3. 1人1台端末の利活用方策

I 児童生徒の主体的な学習活動のための効果的なICT活用として、次の3つを充実・推進していきます。

- ① 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
- ② 教員のICTスキルの向上による授業改善
- ③ 「デジタル教材（学習者用デジタル教科書）活用の更なる推進」

③については授業をベースにしながら、動画やドリル等を含み、学習者の進捗に応じて内容を調整できるため、一人ひとりのペースに合わせた学習サポートが可能となり、個に応じた効果的な学習としてより実践的な活用を図ります。

II 児童生徒が情報化社会に対応する資質・能力を育成する上で、次の2つを育成していきます。

- ① 情報化社会に対応するICT活用スキルの育成
- ② 情報化社会に参画する態度の育成

②については、これからの社会の担い手として「デジタルシティズンシップ教育の促進を図ります。

III ICTの組織的運用と校務の効率化を図る上で、次の3つを推進します。

- ① 組織的な情報化推進体制の確立による安定的な情報教育の推進
- ② 校務支援システム活用による校務の効率化
- ③ 学校内及び学校間での情報の共有による校務の効率化

以上の取組を実施するためには、1人1台端末が必要不可欠となります。そのため、端末の整備及び更新により、1人1台端末環境を引き続き維持していきます。

【1人1台端末の利用活用指標及び目標】

調査項目の指標			R6基準値	R7目標値	R9目標
個別最適・協働的な学びの充実	① ICTを活用して 「わからないことを調べることができる」児童生徒	小	66 %	75%	100%
		中	92 %	96%	
	② ICTを活用して 「自分の考えをまとめることができる」児童生徒	小	59 %	80%	100%
		中	75 %	88%	
	③ ICTを活用して「自分の考えを発表できる」児童生徒	小	54 %	77%	100%
	中	54 %	77%		
④ ICTを活用して 「他者と考えを共有することができる」児童生徒	小	48 %	74%	100%	
	中	47 %	74%		
⑤ ICTを活用して 「他者と協働して考えをまとめることができる」児童生徒	小	42 %	71%	100%	
	中	54 %	77%		
教員のICTスキル向上による授業改善	① 授業でICTを活用して指導ができる教員	小	90 %	95%	100%
		中	88 %	94%	
② 「児童生徒が主体的にICTを活用した授業」を実践している教員	小	79 %	90%	100%	
	中	83 %	92%		
ICT活用スキルの育成	発達段階に応じたICT活用ができる児童生徒	小	90 %	95%	100%
	中	79 %	90%		
情報化社会に参画する態度	情報モラル教育を計画的に推進できたと答えた学校	小	73 %	87%	100%
	中	100 %	100%		
校務の効率化	①校内教育情報化推進計画の策定及び校内OJTによる推進体制の構築ができた学校	小	91 %	96%	100%
		中	80 %	90%	
②ICTの活用によって、校務が効率化していると感じている教員の割合	小	96 %	98%	100%	
	中	91 %	96%		

4. 今後の計画について

これらの現状等を鑑み、今後は以下の項目についても重点的に1人1台端末の利活用を促進します。

○教員への情報提供

- ・リーディングDX指定校等の事例も含めて、生成AIの活用における先進校の事例等を紹介するとともに、生成AI教員研修等を実施し業務改善の在り方を共有する。
- ・グループウェアと校務支援システムとの運用をさらに強化し、端末の利活用に関する情報提供を行う。

○すべての児童生徒の学びの保障

- ・不登校児童生徒へのオンライン活用を一層促進したり、特別な支援を要する児童生徒等への学習上の困難を和らげるソフトウェアや機器を付加する等の整備を図る。